

1 調査結果の概要

	自校	東広島市	広島県	全国
平均正答率（％）	43	50	47	48.3
正答率40％未満の生徒の割合（％）	42.9	44.8	48.3	47.1

2 課題が明らかになった問題の分析と改善策

	問題番号	育てたい力	対象学年	検証方法	目標値
1	6二 正答率 14.3％	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかみとる力	第2学年 思判表【C関数 1次関数の利用】 具体的な事象を題材にし、そこから関数関係を見いだして説明する時間を設ける。その際に「 $y = ax + b$ 」における定数 a 、 b が何を表しているのかを考察し、学習したことを用いて説明させたい。	10月 第2学年に本単元の指導後、小テストを実施し関連問題を出題する。	正答率 50％以上
2	9二 正答率 23.8％	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる力	第2学年 思判表【B図形 三角形と四角形】 問題で与えられた条件を変えたり、追加したりすることで証明がどのように変わるかを考察する活動を取り入れる。その際に、ICTを活用することで、辺や角、図形の関係性を視覚的に捉えやすくするなどの工夫をおこなう。さらに、自分の証明や考えを他者に説明する言語活動を取り入れることにより、証明の妥当性や有効性を吟味し、評価・改善させたい。	1月 ①第2学年に本単元の指導後、小テストを実施し「問題番号9二」の類似問題を出題する。 ②第3学年に「問題番号9二」を実施する。	正答率 60％以上 正答率 70％以上
3	4 正答率 28.6％	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができる力	第2学年 知技【C関数 1次関数】 具体的な事象を題材にし、そこから数量の関係に気づかせ、表やグラフを用いて「見える化」を進める。 x の増加量に対する y の変化を言葉で説明させることで意味理解を深め、式とのつながりを意識させながら指導を進める。	10月 第2学年に本単元の指導後、単元テストを実施し「問題4」の類似問題を出題する。	正答率 80％以上